



第 39 号

平成 24 年 2 月 16 日

J A S W H S 公益社団法人 日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

東日本大震災 MSW災害支援ニュース



福島県猪苗代町 箕輪山

目 次

1. 災害対策本部からのお知らせ
2. セミナーのお知らせ
3. 現地・事務所協力員の感想文

災害対策本部からのお知らせ

災害対策本部の Facebook ができました！！

現地や災害対策本部から、タイムリーに情報を発信して参りますので、どうぞご覧ください。皆様からのコメントもお待ちしております。

Facebook のアカウントをお持ちでない方でも、Google や Yahoo! で「**日本医療社会福祉協会 災害対策本部 Facebook**」と検索していただくと、ご覧いただくことができます。今後、協会ホームページ内にリンクを作成する予定です。

-Facebook URL-

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

現地・事務所協力員募集！！

引き続き、現地・事務所協力員を募集しています。

現地は、おかげさまで2月はほぼ定員に達しましたが、2月28日～3月3日、3月5日～8日、3月12日以降（3月24日・25日を除く）が足りていません。

仮設住宅でも、在宅避難世帯でも、ソーシャルワーカーの支援が必要とされている状況です。皆様のご協力をお願いいたします。

ご協力いただける方は災害対策本部までご連絡下さい。

災害対策本部会議について

3月2日(金)19:00～本部のメンバーで今後の方針等を話し合います。

決定事項は後日皆様にご報告させていただきます。

この活動へのご意見や会議での検討事項等がありましたら、2月24(金)までに災害対策本部にお電話やメールでお寄せ下さい。

災害支援 SW 報告会について

次回は3月に予定しています。

詳しい日時・会場が決まりましたら、改めてお知らせさせていただきます。

なお、今後は全国の皆様にご参加いただけるよう、東京以外の会場で開催していくことを検討しております。皆様、ぜひご覧になってください。

日本医療社会福祉学会セミナーのお知らせ

ホームページでもご案内しておりますが、災害ソーシャルワークをテーマにした、大変興味深いセミナーです。日本医療社会福祉学会(当協会とは別団体です)に直接お申し込み下さい。申込書はホームページよりダウンロードできます。

*詳細は別ページのセミナーのお知らせをご覧ください。

日本医療社会福祉学会：http://www.jaswhs.or.jp/touhoku/info_detail.php?@DB_ID@=16

災害ソーシャルワークの確立 I

～石巻赤十字病院医療ソーシャルワーカーの活動を踏まえて～

専門職として、ソーシャルワーカーが
災害支援をすることの意義を考えようではありませんか

昨年の東日本大震災は全ての日本人にとって、国のあり方そのものを問い直す災害でありました。保健医療分野におけるソーシャルワーカー、並びにその分野の研究者にとっても、この震災は今後のソーシャルワークについて、そのあり方に加えて根底を洞察しなければならない事態であるにとらえております。

当学会は、阪神淡路大震災時には5年間、仮設住宅の一室を市から提供を受け、災害弱者といわれる方々を支援いたしました。その経験を踏まえ、上述のテーマを午前中パネルディスカッションを通して追求したいと考えました。

午後からは、石巻赤十字病院の医療ソーシャルワーカーから災害急性期の事例、連携支援の実態に関する事例を、当学会からは、阪神淡路大震災時に活動した武田氏と山本氏が事例を提出し、参加者がグループワークを通じて災害ソーシャルワークのあり方について学びを得る機会とします。

日 時：平成24年3月3日（土）10：00～16：00（受付9：30～）

午 前 ： パネルディスカッション

午 後 ： グループワーク 事例から学ぶ災害ソーシャルワーク

会 場：文京学院大学 本郷キャンパス 東京都文京区向丘1-19-1

東京メトロ南北線「東大前」駅下車（2番出口）徒歩0分

パネラー：八島 浩 氏（石巻赤十字病院 医療社会事業科）

伊藤 茂樹 氏（石巻赤十字病院 医療社会事業科）

小野沢 滋 氏（亀田総合病院 地域医療支援部部長）

武田加代子 氏（天理大学 人間学部）

山本みどり 氏（西陣病院 医療社会福祉課）

定 員：60名（先着順。但し、申込者が定員を超えた場合は会員を優先します）

参加費：会員 2000 円 非会員 4000 円

問合せ先：（公社）日本医療社会福祉協会事務局内 日本医療社会福祉学会事務局

TEL：03-5366-1057 FAX：03-5366-1058

E-mail：jasswh-post@jaswhs.or.jp

現地感想文

2月6日（月）

本日は、雪国より頼もしい援軍が参加、仮設茶話会でも、住民の突発事故もあり、パーキンソンや片麻痺の参加者ありで、刺激的な内容の、濃い一日でした。

夜は、振り返りとワーカー談義で、これまた盛り上がりました。

2月7日（火）

毎日ぎっしりのメニューですが、働き手も多いので中身の濃い仕事がたくさん出来ています。

記録し、報告するのが間に合わない内容の濃さです。

2月8日（水）

今日もフル稼働でした。分刻みの密なスケジュールで、遠くまで走り回り、たくさんの仕事をこなし、住民からの注文もたくさんいただきました。

北陸の仲間を、太陽と、雪無しの暖かな毎日が歓迎しているようです。

2月9日（木）

在宅避難アセスメント、やっと先週の積み残しと今週分を、不在を含めて対応したかと思ったところに、また新規 59 ケースです。振り分けの担当者も、こんなに沢山のケースを依頼することになって、どうしたらよいかと困惑されていましたが、ソーシャルワーカーが対応する必要性のあるケースなので、何とか、この期待に応えていかなければと思います。専門職支援の前に、一戸、一戸、訪問して下さっている市民団体の方たちは、調査して、ただ専門職などに引き継ぐだけでなく、その後のモニタリングも予定しているそうです。本協会も、市民団体の評価を受けることになります。必死に対応していますが質が問われることは、間違いないので、皆様のお力添えが必要です。

事務所感想文

2月7日（火）

佐藤（自宅）

2月・3月と長期にボランティアに入られる方のお問合せをいただきました。風化させずに支援を継続するには多くの SW が必要だと思っています。ありがたいです。

2月8日（水）

左右田（初台リハビリテーション病院）

今日は富永さんと2人で確認しながら1つ1つ作業を進めることができ、感謝です。ボランティア保険の手続きフォーマットが分かりやすく更新されていて、一原さんの細やかなお心遣いに感謝しています。

富永（大倉山記念病院）

久しぶりの事務所ボランティアでしたが、左右田さんと楽しく仕事させていただきました。やはり2人でやると安心です。マニュアルを読みつつの活動でした。

2月11日（土）

中山（初台リハビリテーション病院）

今日は土曜日で祭日ということもあり、電話も無くひとり黙々と現地ボランティアに参加する方々宛の文書作業などをしていました。多くの方がご応募くださってありがたく思います。私もできることを精一杯させていただこうと思います。